

3

A very long time ago, there lived an old man and an old woman in a village.

One day, the old man was collecting some tree branches for firewood in the mountains.

The sun was setting and it was getting dark, so he bundled all the branches in a pile and carried it on his back.

“Phew, I must be getting old, these days I struggle to carry this.”

On his way home, he decided to take a rest and sat on a tree stump.



5

“Ugh, I’m so thirsty. Are there any rivers or fountains around here?”

Then, he heard the sounds of water trickling down.

Fortunately, there was a spring fountain behind the bush near him.

“Oh, great!”

He scooped the water with his two hands and drank it.

After resting for a little while, he carried the pile of branches on his back and started walking down the mountain again.

Somehow, his body felt healthy and fit, as he trekked down the path much faster than usual.



むかし むかし、ある むらに、
おじいさんと おばあさんが すんでいました。

あるひ、おじいさんが やまで
たきぎを ひろっていました。

ゆうぐれどきに なり、おじいさんは
ひろった たきぎを ひとまとめにして、
せなかに かつぎました。

「ふう、やれやれ。このところ としの せいか、
たきぎが おもく かんじるわい」

おじいさんは かえりの やまみちの とちゅうで、
きりかぶに こしを おろし、
ひとやすみすることに しました。



「ああ、のどが かわいた。どこかに、
かわか わきみずでも ないかな・・・」

ふと おじいさんの みみに、ちよろちよろと
みずの ながれる おとが きこえてきました。
なんと すぐ ちかくの しげみの なかに、
きれいな みずの わきでる、
ちいさな いずみが あったのです。

「おお、こりゃたすかった！」

おじいさんは、りょうてで みずを すくって
のみました。

すこし やすんでから、おじいさんは ふたたび
たきぎを かついで、やまを くだりはじめました。
なぜか からだに ちからが わいて、
いつもより ずっと かるい あしどりで、
やまみちを あるいていきました。

